【事業名:石鎚山系における希少野生植物等保全事業】 【団体名:愛媛県石鎚山系生物多様性保全推進協議会】

事業の背景・目的

- ▶ 近年、石鎚山系におけるニホンジカの侵入・拡大による自然植生被害が懸念されている。
- ▶ 当該地域は、三方向からの侵入経路があり、地理的に効率的な捕獲が困難な状況。
- ▶ 保護区域指定以降、植生等の調査情報は限られており、整備された資料がない。
- ▶ <u>ニホンジカや生態系の問題についての認識</u>が、<u>有識者や一部の登山者</u>等にとどまっており 高標域でもある中、保全活動につながりにくい。



自然植生への影響が軽微な 段階から、希少野生植物の 保全対策に取り組む

事業の内容

事業① 植生等調査事業

- ・現地調査により植物 リストを作成した。
- ・センサーカメラにより ニホンジカの侵入調査 を実施した。
- ・「石鎚山系生物多様性 保全計画」を検討・ 策定した。





事業② 人材育成事業

- モニタリング手法をまとめ、 マニュアルを作成した。
- ・ニホンジカの生態等について の座学を県内3か所(西条市・

松山市・ 久万高原町) で開催した。





事業③ 普及啓発事業

・ニホンジカと生物多様性 保全について普及し、 地域での取組意識の醸成 を目的としたシンポジウ





得られた成果

- ◆標高1000m以上の登山道・林道沿いで確認できた全種の記録とRDB種の位置等を記録。植生変化を確認する ための基礎資料とする。(749種のうち愛媛県もしくは環境省のRDB種は113種(準絶滅危惧・情報不足を含む))
- ◆植生等調査、ニホンジカ侵入調査をもとに、平成30年度に「石鎚山系生物多様性保全計画」を策定し、 平成31年度以降、保全対策(防鹿ネットの設置等)を実践に移す。
- ◆平成30年度に作成した「モニタリングマニュアル」を活用し、平成31年度に現地研修(ワークショップ)を 実施し、「マニュアル」の精度を高めつつ、情報収集体制を構築する。
- ◆シンポジウムの開催により、協議会会員だけでなく、県外を含む他団体との連携体制を構築することができた ため、引き続き、広く一般県民を対象とした普及啓発活動を行う。

防鹿ネットの作業







